



第388号

横浜市立みたけ台中学校

3月号

平成31年3月1日

YY-NET 公式サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/mitakedai/>

## 30年前のみたけ台中学校

副校長 岸川 雅郎

毎年3月になると「今年度も終わりですね」という声を聞きます。今年5月には天皇陛下が新しく即位され、新しい時代が始まろうとしています。平成の30年間、いろいろなことが起こりました。30年前のみたけ台中学校はどうだったのかという興味に誘われ、平成元年度の卒業アルバムを調べてみました。開校11年目で校舎や体育館、プール、グラウンドは今のものとほとんど同じです。生徒の数は今の2倍以上の数で、各学年6クラスで1クラス44人の大きな学校でした。制服はいまのものとかわりませんが、体操着ジャージはデザインが違いました。行事も同じだったり、少し違っていたり様々です。例えば、体育祭は運動会と呼ばれ、応援団は昔からありました。修学旅行は今と同じ京都・奈良方面でした。自然教室は群馬の赤城林間学園で飯盒炊事とキャンプファイアーを行っていました。課題発表会は文化祭と呼ばれクラス発表（演劇など）が中心で、合唱コンクールは行っていませんでした。その他、各学年餅つき大会があり、地域や保護者の協力で男子は餅つき、女子は調理をしてつくたてのお餅を食べていました。他にもいろいろとありましたがアルバム上ではわかりませんでした。平成の30年間いろいろなことを歩いてきて今の姿があるのかなと思いました。

新しくできた学校では全て始めから作り上げなければいけません。伝統のある学校では今まで作り上げたものをさらによいものにする楽しさがあると思います。私は昨年みたけ台中学校に着任し、丸1年が経過しました。いろいろな行事を見て、普段の姿を見て、また、様々なことに参加して、みたけ台中学校の良さが分かったような気がします。みた中生が持つてるパワー（潜在能力）をどのように引き出すか、どのように伸ばすかは我々大人がお手伝いをしていかなければならないと思います。

3月は1年間のまとめの時期です。自分が生活したクラスと別れます。自分で頑張ったこと、反省することをしっかり確認して進級していきましょう。3年生は入試を終え、進路も決まり中学校生活が終わりに近づいています。人生の中で少しの期間が中学校での生活でした。みたけ台中学校40年の歴史の中のほんの一部でもありました。君たちが過ごした3年間で伝統をつくる訳です。今年の卒業生は112名、今年までの40年間の卒業生6664名の一人として、みたけ台中学校の卒業生として自信を持ってこれからも頑張ってください。次の時代のみたけ台中学校を外から応援してください。

# 小中交流事業

生徒会本部役員が、「鉄小」と「みたけ台小」を訪問しました。小学校5年生を対象に中学校の学校紹介を行いました。委員会紹介、部活動紹介、クイズ、標準服・

体操着試着体験などを行いました。児童のみなさんは本校を知ることができたでしょうか。質問コーナーでは、『授業のようす』『弁当について』『部活動について』『テストについて』など中学校生活に対する様々な質問が活発に出たそうです。

みたけ台中学校への入学を心よりお待ちしております。



## 職業講話

1月25日(金)1年生を対象に職業講話を行いました。消防士・警察官・パティシエ・薬剤師・放送局員・植木職人さんのお話を聞きました。全体会のあと、職業ごとに分かれてお話をお聞きしたり体験をしたりしました。ご多用の中お運びいただいた皆様ありがとうございました。

<生徒の感想>

### パティシエ

・パティシエに関して多く話すのだらうと思っていたのですが、パティシエ以外の職業になっても活かせる、素晴らしい意見だと思いました。個人的に、他の店に対してライバル視をしない、されても気にしない、とおっしゃりましたが、これは日常生活でもつかえそうで、参考になりました。

### 消防士

・命を懸けて人を救う仕事は素晴らしい仕事だと気づかされました。

### 植木職人

・体の健康と病気にならなければ、なんとか仕事をする事ができる。そして、お金を払ってくれる人からの感謝の言葉が一番の励みとおっしゃっていて、それって普通のことのように実はすごいことだと気づきました。

### 放送局員

・ホスピタリティ・プロフェッショナル・チャレンジの大切さも知れました。将来働くことになったときに、大切にしようと思いました。今こうやって学校で授業を受けることで、全て将来につながることもよく分かりました。

